

平成25年度C部門大会(北見大会)でのアンケートへの対応について

主なご意見	対応
会場がわかりづらかった。 北見工大までのアクセス(北見駅から)が少し不便だった。 会場案内図にバスの時刻表(大通発・工大入口発)を掲載した方が良い。 受付での案内板(地図)やセッション構成表が見やすく、分かりやすかった。	分かりやすい案内を作成するように留意します。
昼休み以外の休憩時間がなかったので、休憩時間を増やして欲しい。	セッション構成時に留意します。
発表15分、質疑応答5分とありますが、基本的に後者が長くなりやすいため、セッション時間にもう少し余裕を持たせた方が良いかもしれません。	セッション構成時に留意します。
発表終了5分前のベルを統一して実施して欲しい。	各講演の発表時間は、オーガナイザーに一任しております。講演者の方は、事前にオーガナイザーに確認して頂ければと思います。
発表時間について、明確にして欲しい。(企画セッションのため、時間が許す範囲で1件を長くしたかったが、会場では講演15分とされてしまった)	各講演の発表時間は、オーガナイザーに一任しております。座長の方に主旨を通知するようにします。
プログラム構成が良く、3日ともバランス良く聴きたいセッションが配置されていた。	次年度以降もセッションのバランスに留意してセッション構成を企画します。
遠方・地方での開催時には、初日の午前や最終日の午後のセッション開始/終了時間に配慮があると嬉しい。	セッション構成時に留意します。
招待講演が少なすぎる。全ての賞とはいわないが、賞をとった人に受賞記念講演をする名誉を与えるべき。	招待講演として、これまで先端技術セミナーおよび特別講演を開催していません。表彰については、特別講演の後の表彰式を開催することを検討しています。多くの受賞者が表彰されるよう、表彰式の進め方について、次年度以降検討します。
発表時間(15分発表+5分質疑)がかなりルーズな感じだったので、厳守していただきたい。	各講演の発表時間は、オーガナイザーに一任しておりますので、講演者の方は、事前にオーガナイザーに確認して頂ければと思います。
論文集はCD-ROMでなく、できればUSBメモリで配布して欲しい。	USBメモリの場合には、紛失する可能性がある、MacOSやタブレット端末では読めないなどのデメリットがあります。参加者の利便性向上のため、昨年の部門大会より開催期間中にWeb上での論文全文公開を行っています。次年度以降も継続する予定ですので、ご活用ください。
講演論文集のページにも会場(部屋)情報と時間情報を記載して欲しい。	次年度以降、講演論文集の構成時に検討します。
講演者発表中、聴講者が発表そっちのけでノートPCでキーボード打音響かせながら作業している様子は講演者ならびに他の聴講者に対して大変失礼である。参加者に強く周知すべきである。	座長への連絡事項に含めるようにします。
日程、プログラムの公開を早めにして欲しい。	なるべく早く公開するようにしますが、プログラム編修・大会運営上での制約があることをご理解ください。
学生が積極的に参加できるような対応がされているように思った。	ポスターセッションやEnglish Sessionなど学生が参加しやすい企画を次年度以降も企画します。
大会プログラム集(講演論文集)に学内、大学周辺のMAPが掲載されており、重用した。	次年度以降も継続して講演論文集に掲載します。
ポスターセッションは、口頭発表のセッションと重ならないように時間を設定した方が良い。	セッション構成時に留意します。
会場に発表者用のパソコンを置いて欲しい(可能であれば)	大会運営費の抑制のため、講演者の利便性を損なわない範囲で導入台数を検討します。

平成25年度C部門大会(北見大会)でのアンケートへの対応について

主なご意見	対応
英語論文の書き方、English Sessionにおけるコメントなど、とても有益であった。	English Sessionについては、より多くの学生にご参加いただけるよう、次年度以降も継続して企画する予定です。
国際的な技術者になるために将来役に立つ企画が多かったのも、とても良い経験になりました。	
Englishセッションを更に充実させてもらいたい。発表と質疑を含めて10分程度とすることで発表件数を増やすことはできないか。できれば原稿から質疑まで全て英語で行いたい。	English Sessionについては、より多くの学生にご参加いただけるよう、次年度以降も継続して企画する予定です。
その場でネイティブの方からコメントもしてもらえるため、非常に良いと思いました。さらに、学生からの活発な参加のために、原稿の枚数を少なくすることや、発表時間を短くすることでより活性化が促せるのではないかと思います。	
抄録の部分が日本語であるのに違和感を感じました。国際的な発表の前段階としての役割にもなりうると思いますので、全体では英語を一貫し、資料作りや発表の場面での量的な負担を軽減することで、セッションの参加を促してみるのはいかがでしょうか。	
原稿作成と当日の発表は日本語・英語のどちらでもよいことをもっと明記して下さい。	本大会では、会告第4報から、英語での口頭発表であること、投稿論文は日本語と英語でもかまわないことを記載しています。次年度以降、第1報より募集方法を明記するように改善します。
電気学会の出版物の販売を行ってもらえるとよいと思います。	予約販売を含め、次年度以降に検討します。
アンケートは項目が設定されたものが良いと思います。	アンケートの記載が容易となるように様式を検討します。
会場の選定の際に、付近の宿泊施設の状況やアクセスの容易さなどを、もう少し考慮して頂きたい。	次年度以降、開催校を決定する上で留意します。
現在、部門大会特集号を出版していますが、「レター」としての特集号などはいかがでしょう？	「レター」としての特集号は企画しておりませんが、部門誌にはレターを投稿できますので、投稿をご検討ください。
電気学会を土曜日、日曜日等の休日にして頂くことは難しいとは思いますが、可能でしょうか？	講演者および参加者の利便性を考慮して、平日に開催するようにしています。
今回も例年以上に活発に意見交換がなされていた。 組織委員の方々がよく準備されていて、会の運行もスムーズであった。 興味のある研究分野が多く、もっと多くの発表を見たかった。 ひとつのセッションで様々な題目の研究が行われていて、とても良い。 来年も参加させて頂きたいと思えます。 たくさんの方に意見やアドバイスをいただけたので、大変ありがたく勉強になった。 色々と知識がある人たちと話すことができ、とても有意義でした。 論文数も多く、さらに見学会まで企画されており、新たに英語セッションも創設されるなど大会役員の御努力に深く感謝したい。 大会運営側と現地（北見市、北見工大）とが一体となって運営され、大会成功に尽力されていることに感謝申し上げたい。 幅広い分野のセッションがあり、色々と興味深く聴くことができました。 自然に囲まれた素晴らしい環境で気持ちよく参加できました。スタッフの方に感謝します。	次年度以降もよりよい大会とするよう、大会委員会で企画・運営します。